

クナシリ・メナシの戦いについて(2)

はじめに

今回も、新井田孫三郎が記した「寛政蝦夷乱取調日記」から、寛政元年（1789）7月20日の記録を見て行きます。この日も立ち会人として「ネチカネ」と「シトウケン」が詰め、「あつけし長人イコトエ、のつかまふ長人シヨング、くなしり長人ツキノエ」の3名に、くなしり、めなし両所の者を今日呼び出して尋ねる、と申し付けました。

めなし夷共申口

めなし徒党の内、シャモ人殺害に加わった者24人（「いゑかれ」欠〇を呼び出し、あらかじめ調べておいた書付をもとに尋ねると、次のように答えました。

「めなし領しへつ」では、粕〆割合の「手宛」は一向に無く、「雇代」については、長人は米一俵にたはこ一俵、ウタシは「多葉粉」半把に「間切」一丁と、わ

ずかな手当て日々使われ、「自分働」も出来ず、越冬

食物が不足し難渋しました。

また、働が悪いと薪で叩かれたメノコが病気になる、

間もなく死にました。アイ

又の女房に対する「密夫」

がひどく、申出をすればか

えて「ツクナイ沙汰」にな

るので申し出が出来ませ

ん各場所と同様の申口有。

「稼ぎ方の者」が言うに

は、「銘々」が働かないとき

は男女に限らず残らず絞殺

すると、薪取りの夷どもに

「咄し」、当年より残らず夷

共を殺すと申し、イ又を縛

から薪取りを申付けられ、その夜に稼ぎ方が無理に薬を飲ませ、そのまま殺しました。その後、庄次郎とい

う者が、怪しい酒を長人ホ

口エメキにくれましたが、

甚だ心配だったので、毒味

し飲んでみるよう申しまし

たら、庄次郎の返事が無かつ

たので、この酒を捨てまし

た。この酒を飲めば死んで

しまうと思いました。

ホ口エメキが宝とする鍋

二つを、稼方が見るために

遣わしたところ、落として

割れたと申して返してくれ

ず、「請取」を申し出ると、

却って「非分の申掛」をし、

ツクナイ沙汰とするので申

と、稼方の者共は土蔵を拵

え、底に針を「敷建並」へ、

その上の板を釣ったところ

に長人達を「数多呼集」、

土蔵で酒盛りをさせ、酔っ

たところで板を切落とし、

残らず殺すと話してしまし

た。

これにより、止むを得ず

「数多申合」わせて、シャ

モ人を討ち殺しました、と

して「ホ口エメキ」ほか23

名が記され、「入牢」が申

付けられました。なお、

「いゑかれ」は子供が病気

で来ず、迎えに行き召し連

れる途中で、取り逃がしま

くなしり蝦夷共申口

くなしり「せせき」の支配人左兵衛は、「めのこ」を引き連れ「子迄出生」させました。

同所の手当は、長人が米糶3俵、ウタシは1〜2俵「めのこ」はたばこ1〜3把とマキリ1丁で召し使われ、難渋しました。

「むしりけし」では、鮭〆粕づくりで雪が降るまで働かされ、「雇代」は一向

にくれず難儀し、雇われ中は自分働きの、冬の鮭賄の支度も出来なかったため、冬の間餓死するところでした。

また、同所支配人左兵衛

が申すには、今年目付にな

られた勘兵衛様は「六ヶ敷」

方で、蝦夷共の粕〆の働

きが悪ければ、米・酒・味噌

に毒を入れ、主な夷を毒殺

し、夷に「粕〆頭取」を申

付け、出精させるはずで、

これに背いたら嶋の夷を残

らず毒殺し、そこに町屋を

拵え、江戸よりシャモ人を

呼び、シャモ地にして商売

すると申ししていました。す

るとサンキチが「暇乞い」

の酒で死に、マメキリの女房が運上屋の飯で死に、その後祝い餅も貰いにゆかず、通詞も虚病で参らなかつたので、マメキリは我らまで毒害されるのは遺憾でござ

います、と申しました。

これにより、止むを得ず

「数多申合」わせてシャモ人を討ち殺しました、として「マメキリ」以下14名が記され、都合37名が残らず入牢させられました。